|■IIII=11 ・¨¨¨・`‐ ■1111rli■ 111111:|'・ ・・||:::・ ¨

|■ 1 11‐. ‐

‐ ■■11■ ‐1 1■

1
2

和 男(日本研究・ 教授)… ………………………
志保子 …… …… ………・………………………・
秀 夫 …・…………………………………………

二の事項……… 大 西 日出和 ●,・ ¨¨¨¨・・…………・:..¨ ¨¨……・・……・・………… 6

居

嘉1橋1喜 恵1韓会文イL研究・助教授)… ………・…… 13

,1・ ●・・・=|・

... `.`● ●●●・・●・・●●|● ●・・・・・●●●●●●●●●●●●●●●●
1.¨.■...…:11.¨.1.=lit..¨ ¨.¨ ¨¨.¨ ¨¨・・・・・

目 111:||:―表

達

也雪

●美

内
柱一

人一
上

淳宏

保

達
村

安
尾

萱
上
安

深井岡

2
3

3 V

4

4７８８９

‐０
■
‐ ２

V

士い
十二”

肇
藤

一
一

．一〓一

原
中

大西 ‐６

‐７

‐８
ｍ

２

一

一一

・ ，・ ‐ 鶴一

■一一」メ

…
…
大学祭始末記
-1
11月祭で何をやるかと言う事を、最初に言い出し
たのは、自分かも知れない。言い出しっぺの何とや
らをいい事に、近くに居たKさんを責任者にでっち
あげて (Kさんごめん、悪気はないんよ)自分はシ
ャアシャアと(?)副責任者におさまって、計画を
練り始めたのが 9月下旬であったろう。56生全員参
加をスローガンに押し進めた計画なので、語学の時
間に宣伝して、第 1回総会なるものを持ったのだが、
集まったのは40人そこそこ。現実は厳しいゼ。思え
ばこれが悪夢の始まりであった。
秋休みが終って、本格的準備に入った。15号教室
を借りて、茶店 (ちゃみせ)をやる。畳を敷きつめ、
正面にはドドーンと北斎の東海道五十二次を配し、
側面にはふすまを設ける。絶えずアトラクションを
行ない、かごで森戸道路から送迎して、お客様方に
古き良き時代を偲んでもらおうという趣向であった。
市中パレードの計画も並行して行なわれた。設定と
しては、全長 6%もあろうかという巨大な地蔵さん
を、農民達がかついでねり歩きながら、豊年踊りを
踊る。突然、供物の団子の山の中から、バルタン星
人が現われ出でて、農民達に災いを為す。農民達が、
地蔵に祈ると、地蔵がウルトラマンに変身し、スペ
シウム光線でバルちゃんをやっつけてしまうのであ
る。「 やるからには賞品をとれ/」 というのが、我
々の旗印であったのだ。
どでかい計画の遂行には企画書が必要 ――実は、
決定事項を書き留めておかなければ、次の日には忘
れてしまうというわけ ―― なので、ノートを 1冊購
入して、『 大学祭始末記 』なるものを作り、企画遂
行の 1から10までを記録して、57生のために残して
おいてやろうという話が出た。確かに、これは便利
なもので、分担した作業を滞りなく進めるのに大い
に貢献した。我々の苦労と喜怒哀楽を、くまなく見
てきたのが、この『 始末記 』である。
何がいけなかったのだろう。スタッフが何の悪事
をしたというのだろう。各係のチーフや、メインス
大内達也
タッフ、そして、クラブで忙しい人達も、皆一生懸
命やったのだ″が、あの 2日の朝は何なんだ、何で
雨が降るんだ、死んで花実が咲くものか。 (感情的
になったらいかん、結果だけ書この市中パレードの
中止を確認した時の我々の落胆は、大きいものだっ
た。パレードのテーフのK君 (前出のKさんとは別
人よ)の胸中を察すると、涙が …あえて出たとは言
わぬが、不幸がこれで終る事をひたすら祈っていた
のだ。しかし……。
茶店の場所変更の知らせが入ったのは、自分に限
って言えば 2日の午後、次の日のために風呂で垢を
落とし、大学に帰ってきた時。まさしく晴天の露震
であった。 (自分流に言えば)学生課の理解のない
態度のために、我々総科56生の茶店は、15号教室を
追われ、大学祭実委のテントの一部を借りて営業せ
ねばならなくなったのである。11月 3日のバザー、こ
の日のために金と手間を注ぎ込んできた室内装飾と
数々のアトラクションが、一瞬にして水泡に帰した
のである。激しい怒りの次に我々が覚えたものは、
「 こんな条件で売り上げが伸ばせるのだろうか、皆
が善意で投資してくれた金を、果たして返済できる
のか。」 という不安だった。しかし、思いを巡らせ
る時間はなかった。あと半日しかない。
バザー当日は、皆休む間も惜しんで働いてくれた。
市中パレードの仇を森戸道路で討つ′とばかりに、
ウルトラ地蔵とバルタンおじさんが特別アトラクジ
ョンをやったりもした。赤字解消のために皆必死だ

ったのだ
`午
後 6時45分:我らが和風茶店、『 松梅
(しょうばい)』 は商品を全て売りつくし、満足の
いく売り上げを残して閉店したo l
56生にとって、初めての11月祭は、苦労とハプニ
ングの連続だった。そのたびに、『 始末記 』に新た
なページを書き加えようと思ったのだが、忙しさで
ままならず、いつの間にかそれは、スタッフ達から
事実上忘れ去られて行った。「行った」とは言うが
何処へ行ったのか?『 大学祭始末記 』は、この企画
上村美雪
朝起きてみると外は雨だった。二日酔いでボケて
いる私にわかった事は、市中パレニドが中止になる
事と、中止になる事でもっとおそくまで寝ていられ
るという事でした。次第に目がさえ事態がのみこめ
るようになってあらためてガーンときました。市中
パレードが中止になるノ
2週間前、桐木君が考えついたすごいアイデア、
団子がバルタン星人に、地蔵がウルトラマンに変身
する。このアイデアを聞いた時本当に実現すると何
人の人が考えたでしょうか、しかし帯名君の芸や岡
君の職人芸など、多くの人の協力によって本当に完
成してしまつたのです。それなのに、ああそれなの
1こ、 雨が|こく い‐・・・・・・・
研究室にやって来ると、もうみんな来ていて、「し
かたない明日、森戸道路でやろう」ということにな
り、みんなで和風茶店・松梅 "の準備をしている時
に届いた学生課による、15号教室差し押えの知らせ。
えええぃぃぃ学生課の人間はばけものかあぁっ′
実委、55生との話し合いの結果15号教室をあきら
め、本部テントを半分借りてやるということになり
ましたが、広川君が家にこもって作り上げた障子、
浮世絵はポシャってしかし、こんなことに負ける総
科生じゃない。森戸道路での馳蔵と団刊は大成功0
ええいっ来年はがんげるぜっ′
に携わった全てのスタッフの心の申にあるのだ。と
書くと、あまりにもわざとらしいのでやめておく。
ともあれ (多くの課題を残してではあるが)オニの
ような大学祭は幕を閉じた。
付責任者の重任を女の細腕で果たしてくれた上
村さん、御苦労さん〃
それから、みんな (僕も含めて)
ほんとにごくろうさん〃
安達 淳
11月 1～ 3日、大学祭と言うものがあった。ふた
を開けたら、なんのことはない大学祭定食。森戸道
路ではバザーがうごめき、大学会館では、何やらの
企画がごたごたと……。
こんな風に当日のことだけ書いていたら、それこ
そ小学生の作文。だけど実際、当日はそんな感じし
か受けなかった。それで、前後のちょっと気になっ
たことを書いてみたいと思う。
オールナイト企画について、実委が、がんばって
いたようだけど、他の人は、賛成、反対、いづれの
レスポンスもしていなかったように見えた。
総科56でバザーをやったが、企画に参加する絶対
的人数が足りなくて、皆オーバーワークぎみだった。
バザーを見て回ったら、いつも同じ顔が同じよう
にわめいていた。
今挙げた例を見れば、何を言いたいかは、わかっ
てもらえると思うけれど、大学祭の作り手と受け手
がほぼ完全にわかれてしまっている。はっきり言っ
て、一日中バザーでがんばるのはつらいし、展示し
てあるものも全部見たい。全員が参加してくれれば、
クラプの方で何かあっても、皆が参加し、皆が見物
できるのだろうが。
参加していない人はいったい何をしていたのだろ
うか。それなりの目的、信念 (大げさだけど)があ
るのならそれもいいだろうが、実際はどうなのだろ
うか。
偉そうに言った僕も、ふり返ってみるとたいした
こともやってないし、何かをやろうとしただけの大
学祭だったのだけど、この何かやりたいという気持
ちだけは持ち続けていたい。
雨と涙の大学祭大学祭私記―「 何か 」を求めて一
‐ 2に‐
「
-2-

大学祭、研究室、そしてつながり
尾村保宏
唐突ながら、研究室の話から始める。
一考するに、学生研究室は様々に活用されている。
今回の大学祭でも、時には作業場として、また集合
場所として、会議室として、連絡場所として、打ち
上げ会場として……o
しかるに、その入れ物に集まる人間はどうかoほ
ぼ完全に固定化してしまっていると思われる。出入
りするのは見慣れた面ばかりである。
このような現状を打開する為、今回の大学祭は、
総科56全員参加を目標とした。部活動等で無理な人
は別として、なるべく多くの人に仕事を手伝って欲
しいと思ったのである。その為、英語の時間前後の
呼びかけを、六月祭同様何回か行なった。
結果はどうであつたかo資金集めの時は、幾分期
待を持った。80名を少し越える人間から集まったの
である。新しい顔ぶれが増えるのか、と思ったもの
である。が、砂糖を蟻が持ち去るが如く、甘い考え
は、その日限りで消えた0前売券を売るにしても、
協力してくれた人は思いの他少なかったし、(数名、
常連でない人に協力していただけた。実に嬉しく思
っている。)実際の準備及び店での仕事と来た日には、
よく見る面ばかりである。
こうなってくると、全員参加に何の意味があるの
か、とふてくされたくもなる。いくらこちらが騒い
でみても、結局相手が動いてくれぬ事には話になら
ぬ。踊らないのでは、笛も吹き疲れる。
だが、考えて見れば、ディスコで円舞曲を流して
も客は踊る筈もない。同一化のおしつけ0は1嫌われ
るのみである。大学祭準備の時、『 これは強制なん
ですか 』という名言を吐いた人もいる。もっと、人
は夫れ夫れにその生活がある、という事を認識すべ
きではあるまいか。それは、少しでも5o生のつなが
りが欲しい事は確かである。が、研究室派は、総科
56だから○○であるべきだ、という考えを少しでも
持っているなら、それは蓋し捨てるべきかも知れぬ。
120人が全員、一方向を向くなど不可能に近いし、
その人にはその人なりの生き方、やり方があるのだ
から。
同時に、研究室派でない人は、その気があるのだ
としたら、積極的にきっかけをつかんで研究室に来
て欲しい。総科においてすべては研究室から始まる
と言っても過言ではないのだから。
大学祭と、56生の横のつながりについて書くつも
りが、いつの間にやら呼びかけになってしまった。
お許し願いたい。
脚Ⅲ‖llll‖ llll‖ ‖ⅢⅢ‖‖Ⅲ‖憫Ⅲ‖‖Ⅲ‖‖Ⅲ‖‖|‖ ‖‖1‖Ⅲ‖‖‖ⅢW‖Ⅲ‖Ⅲ‖JⅢ鴫‖Ⅲ叩‖Ⅲ‖Ⅲ:llll‖ ‖‖‖‖‖‖‖J:Ⅲ‖‖ⅢllllⅢ 鴫‖Ⅲ‖rⅢ
教育実習レポート
‖Ⅲ‖脚川脚Ⅲ‖Ⅲ‖脚川脚Ⅲ‖ⅢⅢ‖Ⅲ口川脚川Ⅲ‖卸Ⅲ‖脚‖‖脚Ⅲ‖Ⅲ‖脚‖珈Ⅲ‖‖Ⅲ叩Ⅲ叩ⅢUⅢ口‖1脚Ⅲ‖Ⅲ‖劇Ⅲ‖‖
教育実習について
ンスに利用したらよいのではないかという話が附属
から出された。聞けば、福山附属では、クラブ活動
でヴィデオ作りが行われ、よい成績を挙げていると
のこと。この話は、福山附属を実習校としている総
合科学部。生物生産学部・教育学部福山分校が協力
して実現することになった。
とにかく、福山附属で教育実習を受けられるとい
うことは、たいへんに意まれたことで、このことを
受講生諸君はよく―よく肝に銘じておいてほしいと思
う。毎年用意される実習の手]|きを見ても、また、
上に記したような先生方の熱心さ、そして肇徒諸君
のかしこさから見ても、おそらく、教育実習校とし
て、福山附属は日本‐なのではなぃか。私は、オリ
エンテーションや、実習終了式のあいさつで、かけ
深萱和男 (日本研究・ 教授)
教育実習のオリエンテTションが、今年からは2
日間にわたって行われることになった。実習の2週
間をより充実させるために、これまで実習第 1日目
に組込まれていた生活指導その他の全体的な注意を、
事前にすませておくことにした結果である。福山附
属の先生方には余分の負担をおかけするわけである
が、先生方は労をいとわず、熱心に指導をしてくだ
さった。この紙面を借りてあつくおネLを申し上げて
おきたい。
_そのオリエンテーションに関連して、り教育実習の
記録をヴィデオに収め、それを来年度からのガイダ
-3-

ねでもおせじでもなしにそう述べた。学校暴力、非
行の低年令化等が深刻な問題になっている多くの教
育現場を思うと、恵まれ過ぎていると言ってもよい
かも知れぬ。もちときびしい教育環境の中で、鍛え
られた方がほんとうはよいのかも知れぬ。
このことを、実習生諸君がどこまで自覚していた
か、まずは大過なく2週間を終えることができて、
私は、一人一人に聞いてみたく思った。
毎年のことであるけれども、この 2週間、大半の
人が合宿生活を経験した。いろいろ不自由なことも
あったろうけれど、宿舎の準備その他について、事
務の人たちの目に見えない尽力があったことも忘れ
ないでほしい。やがて西条へ移転すれば、どの学部
も同じ条件で苦労するはずである。わが学部は、他
にさきがけて、貴重な経験を積んでいるわけである。
教育実習について
社会科社会文化コース井上志保子
教育実習 ―追われ続けた 2週間、といった感じだ
った。受験のころを想起させる規律正しい生活と、
夜中までの教材研究 ――。
総科の教生像は、「教科の専門的知識もなく、か
といって教育学を専門に学んでいるわけでもないか
ら、教育方法も身についていない。ともかく情熱的
に (がむしゃらに)とりくむ 」なのだそうだ。情熱
的だといわれるのは悪いことではないだろうが、そ
の裏に、教職につく者に要求される基礎的な能力を
身につけていないことへの鋭い批判があることが多
いわけだ。肝に命じるべきだと思う。
私の教えた部分は自分の専門ともつながりのある
部分であった。にもかかわらず、よくわからずあち
こちかけずりまわるはめに陥った。図書館に資料が
十分あるわけでもなく、自分の本全部を福山までか
ついでいくわけにも,ヽかず。結局、私の場合は、友
だちに頼んで、広島から本をもってきてもらった。
しかし、 2,3日で何ができよう。付け焼刃はダメだ
なぁ、というのが実感。後輩の方には、実習前に教
材研究だけはすませて行くよう助言したい。
教育実習の時には、もっともっと、「 どうやった
らわかりやすいか」「生徒の主体性を導き出せるか」
「楽しい授業になるか 」といったことを考える余裕
をもちたかった。
また、教育実習の体制について、皆んなで解決を
計ってほしいと思うことがいくつかある。
第 1は、費用の軽減。ともかくお金がかかる。交
通費、宿泊費、食事代。食事はしなくては死んでし
まうのでまだいいが、宿泊費で 3万 5千円がとんで
いった。帰ったあとふりかけだけで生活したとか、
バイトに追われたとか悲惨な話もきいた。
反対に旅館でなく寮及び同窓会館に宿泊した男子
は、食事に不自由していた。「教育実習に行くとや
せる」 という定説は、栄養失調によることを立証し
た。 (旅館にとまった私はふとって帰ってきた。)
下宿からの通勤は無理な実習生が相当数いる以上、
実習用の寮を建てるとか方法を講じてはしい。学生
に 6万もの出費は痛い。
第 2は、教科のみでなく、生活指導にも触れさせ
てはしい、という願い。現実問題として難しいのは
わかるが、HR参観の機会を位置づけるとかしてほ
しい。荒れた学校の実態を聞くたびに、教師に求め
られている力は、担当教科の授業実習だけではつか
ないと強く感じる。
以上のような点、どうか今後いい方向にむくよう
期待します。
教師になりたいと真剣に思い勉強したが、教員採
用試験の壁は厚い。来年私はどうしているだろう一。
来年度は40人学級の見送りで、45人をこえる学級が
でてくるという。よりよい教育を求める側は、やる
気のある教師を求めていると思うのだが一二。
絶対教師になるんだ、と燃えている後輩の皆さん、
がんばって下さい。
「 K君の苦悩 」
理科情報行動科学コース岡安秀夫
K君の許可をもらい、来年のため、さらに今後の
実習の教訓として彼の実習の日々を記す。彼のご協
力に感謝します。
第一章不運は初日から
教壇に立ち四十数人の生徒の前でたったひとりで
授業をすることなど、だれにとっても初めて
|の経験
だ。K君の場合、その不運はわれわれ実習生―同の
中で実習第一日目の第一番目の授業を飾るようにな
っていたことだ。授業の時間割は実習に入る前に決
めたものだが、その決めているときK君は用事があ
-4-